

平成30年度 富屋小学校 学校評価書

1 教育目標（目指す児童像含む）

- (1)基本目標 ・ 豊かな心と健やかな体を持ち、自ら考え進んで学び、次代をたくましく生きる児童を育成する。
 (2)具体目標 ・ 元気でやりぬく子 ・ 自分で考え進んで学ぶ子 ・ 仲間のために考えはたらく子

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

本校教育目標達成のために、全職員が信頼と協調のもと、互いに高め合う人間関係を構築し、創意工夫と活力ある教育活動を展開する。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 豊かな心の育成
 ・ 感謝と思いやりを基盤とした豊かな心の育成 → 道德教育、特別活動、読書活動等の充実
 (2) 体力の向上と健康安全教育の推進
 ・ 体力づくりに励み、健康で安全な生活を目指す態度の育成 → 体力づくり、保健教育、食育等の推進
 (3) ○主体的に学ぶ児童の育成
 ・ 自ら考え、進んで学ぼうとする意欲や態度の育成 → 基礎基本の定着、読解力の向上、家庭学習の確立
 (4) ○ふるさと学習の推進
 ・ 地域の特性や教育力を活かした特色ある教育活動の推進 → 富屋再発見の充実、地域の人材・資源の活用
 (5) ○地域に根ざし、開かれた学校づくりの推進 → 積極的な情報発信、学校開放、地域協議会の活用
 (6) 教育公務員としての使命と責任の自覚、及び、専門職としての資質の向上 → 授業研究会、校内研修

【晃陽地域学校園教育ビジョン】

地域に根ざし、子どもが生き生きと活動する晃陽地域学校園 —児童生徒の学力向上と学習習慣の定着を目指して—

4 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- 【学 校 運 営】 ○地域に根ざし、児童が生き生きと活動する学校の創造
 【学 習 指 導】 ○自分で考え、進んで追究し、生き生きと表現することができる児童の育成
 【児 童 生 徒 指 導】 ○思いやりの心を持ち、生命の大切さを理解して、正しく判断し行動することができる児童の育成
 【健康（保険安全・食育）・体力】 ○運動の楽しさを味わいながら進んで体力を高めようとする児童の育成

5 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
学校運営の状況	A1 学校は、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケート「自分は今の学校が好きである。」 ⇒児童の肯定回答85%以上	① 望ましい集団づくりと個に応じた指導の充実を図る。 ② 交流活動やふるさと学習の充実を図る。	B	【達成状況】児童の肯定的回答93.5% ・ 各教職員の専門性を生かした学級経営や学習指導及び地域の人々に支えられた多様な活動により児童の自己肯定感等が高い。 【次年度の方針】 ・ 全教職員共通理解のもと、日頃からの児童理解に基づき、個に応じた指導を細やかに行う。 ・ 児童の意欲や郷土愛の育成を目的にしながら、より児童主体の学習となるよう工夫する。

A 2 教職員は、組織の一員として熱心に教育に当たっている。 【数値指標】 全体アンケート「先生方は、大切なことをしっかり教え、熱心に指導してくれる。」 ⇒児童の肯定回答 85%以上	① サービスの厳正とともに積極的に自己研修に努める。 ② 基礎学力を定着させ、主体的な学習・態度を育てる授業を工夫する。 ③ 生活のきまり、人としてのルール・心の教育を大切に指導する。	B 【達成状況】児童の肯定的回答 98.1% - 図画工作科の研究を中心とした学習指導や挨拶の励行等の生活指導共に、熱心に指導を重ねたことにより、児童の肯定的回答が最も高い状況にある。 【次年度の方針】 - 今年度の研究の成果を踏まえた学習指導の充実を図る。併せて、児童にとって楽しい学校になるよう生活指導等についても全教職員の共通理解のもと取り組んでいく。
A 3 児童は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、授業と生活のきまりやマナーを守って生活している。」 ⇒児童の肯定回答 85%以上	① 「富屋小のきまり」を守る指導を通して、社会のきまりを守る態度を育成する。 ② 生活当番を中心として、児童の実態に応じた生活目標を立てるなど、ルールやマナーに対する意識を高める。	B 【達成状況】児童の肯定的回答 87.5% - 児童の肯定的回答が 85% を上回っている。月目標をキーワードにして指導を継続しており、児童の意識は高い。 - 登下校中の安全な歩行について改めて指導する必要性がある。 【次年度の方針】 - 引き続き、学習や生活のきまりを明確にしつつ、実態に応じた月目標を設定して児童を指導していく
A 4 教職員は、分かる授業や児童にきめ細やかな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケート「先生方の授業は、分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 授業のねらいや一人一人の課題を明確にし、板書の構造化や振り返りや、まとめ方を工夫して、児童の思考や理解を深める授業の実践を図る。 ② PDCA サイクルを活用して指導の改善を図り、一人一人への支援の充実を目指す。	B 【達成状況】児童の肯定的回答 96.8% - 授業のねらいや一人一人の課題を明確にし、児童の実態に即した授業展開や振り返り、まとめ方を工夫して学力向上に努めた結果、児童の肯定的回答が 96% を超える高い数値を維持できた。 【次年度の方針】 - PDCA サイクルの効果的な活用をより具体化し実践に努める。
A 5 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、いじめ対策を積極的に公表し、熱心に取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定回答 85%以上 ⇒保護者の肯定回答 75%以上	① 日ごろからいじめは許されない行為であることを指導し、いじめゼロ強調月間で、スローガン募集やゼロリボン着用、いじめゼロ集会等を実施し、いじめゼロへの意識向上を図る。 ② 「生命尊重」を重点項目とした道徳授業を各学年で実施するなど、「宮っ子心の教育」を推進していく。 ③ 学校での取組を学校便り等で保護者に知らせる。	B 【達成状況】児童の肯定的回答 97.7% 保護者の肯定的回答 79.0% - 児童を主体としたいじめゼロ集会などを通して、いじめはいけないという意識を持たせることができています。また、学校での取組を保護者に周知することができています。 【次年度の方針】 - 引き続き、児童が主体となって取り組む活動等を通し、いじめが許されないことであることを指導していく。また、保護者に対し、適宜学校の取組を周知していく。
A 6 日課、授業、学校行事などの教育課程は、適切に実施されている 【数値指標】 全体アンケート「学校の日課、授業、行事などは、適切に実施されている。」 ⇒教職員・児童の各肯定回答 90%以上	① 教育活動について PDCA サイクルを効果的に活用し、行事ごとの反省や見直しを図る。 ② 年間指導計画に基づく授業時数の確保や行事等の充実に努める。	B 【達成状況】 教職員の肯定回答 100% 児童の肯定回答 93.1% - 行事ごとの反省を次年度の計画に反映し、行事等の充実に努めている。 【次年度の方針】 - 引き続き、児童の負担も考慮しながら、各行事のさらなる充実に努めていく。

A 7 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、学校だよりや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している。」 ⇒保護者の肯定回答 85%以上	① オープンスクール等の機会を活用するとともに、たよりやHP、校内掲示により情報を家庭や地域に積極的に発信する。 ② 授業参観等において、保護者や地域住民が児童と共に活動する機会を設定する。	B 【達成状況】保護者の肯定回答 95.3% - 学校だよりを始め各種便り等において、活動の様子や児童の姿を随時、適切に発信していること等により、保護者の肯定的回答が高い。 【次年度の方針】 - 各種便りを主とした情報発信を継続するとともに、HPによる広い情報発信や校内掲示の工夫による学校訪問者への情報公開等を工夫する。
A 8 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った学校づくりが推進されている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、家庭、地域、企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 ⇒保護者・地域住民の各肯定回答 90%以上	① 地域の人材や教育資源を有効に活用するとともに、人材の確保に努める。(富屋再発見、ホタル学習、学校田活動、地域施設見学、読み聞かせボランティア、民話活動等) ② 地域と連携した教育活動を推進する。(ファイトとみや、収穫祭) ③ 地域協議会との連携により、学校運営の充実を図る。	B 【達成状況】 保護者の肯定的回答 94.8% 地域住民の肯定的回答 92.9% - 人材の有効活用が図られ、地域等と協力した学校づくりが推進されている。 【次年度の方針】 - 次年度も地域等と密接に連携を取り、活動の充実を図るとともに、さらに地域の人材や教育資源の有効活用に努める。
A 9 校内は、学習にふさわしい環境となっている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、荷物や備品が整理整頓されるなど、学習しやすい環境である。」 ⇒保護者の肯定回答 85%以上	① 安全で学習しやすい校内環境を整備し、季節感のある掲示物を掲示する。 ② 身じたくを整えたり、時間いっぱいまで清掃に取りかかりたりして、お互いに協力しながら、清掃活動の充実を図る。	B 【達成状況】保護者の肯定的回答 94.1% - 安全点検が適切に行われており、修繕等の対応も早い。また、各学級はもとより、校内全体で掲示物に工夫が見られる。 - 身支度をしっかり整え、お互いに協力しながら清掃活動に取り組む児童が多い。 【次年度の方針】 - 今年度同様、年度当初の計画通りに掲示することで、学習環境を整えていく。
A 10 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、小学校と中学校が連携した小中一貫教育・地域学校園の取組を行っている。」 ⇒保護者・地域住民の各肯定回答 80%以上	① あいさつ運動や中学校訪問、冒険活動教室での交流を円滑に行い、児童が中学校への期待をもつことができるよう努める。 ② 乗り入れ授業や部会ごとの業務連携などにより、教職員の交流・連携の充実を図り、教職員の資質能力の向上に努める。	B 【達成状況】 保護者の肯定的回答 94.4% 地域住民の肯定的回答 100% - あいさつ運動や中学校訪問、冒険活動教室での交流を図ることで、児童が中学校への期待をもつことができている。 【次年度の方針】 - 次年度も地域学校園の教職員との交流・連携のさらなる充実を図り、児童の学習習慣の定着、中学校での円滑な学校生活を目指していく。
A 11 多様な専門性を有する学校スタッフの活用により、教員の業務が縮減されている。 【数値指標】 全体アンケート「多様な専門性を有する学校スタッフの活用により、教員の業務が軽減されている。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	① 学校図書館司書業務嘱託員、かがやきルーム指導員、ALT、スクールカウンセラー等の専門性を生かした活用により、学級担任等の業務の軽減を図る。	B 【達成状況】教職員の肯定的回答 60.0% - 多様な専門性を有するスタッフの活用により、児童の意欲が高まり、学習効果は上がっているが、教職員の業務の軽減には余地がある状況である。 【次年度の方針】 - 専門性を有するスタッフとの情報共有のための打合せ等が効率的に実施できるよう、時間や場、方法を工夫していく。

		A12 教員は多様な専門性を有する学校スタッフと円滑なコミュニケーションが図れている。 【数値指標】 全体アンケート「教員は多様な専門性を有する学校スタッフと円滑なコミュニケーションが図れている。」 ⇒教職員の肯定的回答 90% 以上	① 学校図書館司書業務嘱託員，かがやきルーム指導員，ALT，スクールカウンセラー等と，授業や活動の前後に情報交換の時間を確保し，コミュニケーションを図る。	B	【達成状況】教職員の肯定的回答 90.0% - 学校図書館司書業務嘱託員，かがやきルーム指導員，ALT，スクールカウンセラー等と授業や活動の前後に情報交換の時間を確保し，円滑なコミュニケーションを図ることができた。 【次年度の方針】 - 年度当初に各々のスタッフの役割や業務内容等を全職員で共通理解した上で，日常の情報交換の時間を確保し，効果的な連携を図っていく。
教育活動の状況	生活	A13 児童は，進んであいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は，時と場に応じたあいさつをしている。」 ⇒地域住民の肯定回答 90% 以上	① 誰にでも元気なあいさつができるよう指導を徹底する。 ② 保護者や地域の方々に対しても進んで挨拶ができるように地域や保護者と連携したあいさつ週間を設定し，意識の高揚を図る。	B	【達成状況】地域住民の肯定的回答 100% - 地域住民からの肯定的回答は高い。児童や保護者の肯定的回答も高まってきており，あいさつへの意識を高めることができてきている。 - 登下校時に自らあいさつができるよう指導の継続が必要である。 【次年度の方針】 - あいさつ運動やあいさつ強化月間などの取組みを通し，児童が自らあいさつできるよう指導を継続していく。 - 学校での取組みを周知することを通して，学校外でのあいさつの意識を高める活動を保護者と連携して取り組む。
		A14 児童は，正しい言葉づかいをしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は，時と場に応じた言葉づかいをしている。」 ⇒児童の肯定回答 80% 以上	① 場に応じた正しい言葉遣いができるようにことあるごとに指導をし，意識の高揚を図る。 ② 学校便りや学年便り等を通して保護者と連携をして指導をしていく。	B	【達成状況】児童の肯定的回答 87.0% - 言葉遣いに対する児童の意識は高いが，時と場に応じた相手の呼び方や丁寧な言葉遣い等については課題があり，実践を伴う状況ではない。 【次年度の方針】 - 言葉遣いに関する項目を月の生活目標に設定するとともに，職員の共通理解のもと，日常生活の様々な場面で指導を徹底する。
	健康・体力	A15 児童は，進んで運動する習慣を身に付けている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は，休み時間や放課後などに進んで運動している。」 ⇒児童の肯定回答 85% 以上	① 新体力テストの結果を日々の体育の授業や休み時間の遊び等に生かし，体力の向上を図る。 ② 水泳・鉄棒・縄跳び等の各種検定において，各学年の達成率の目標を設定し，パワーアップノートを活用して実施する。 ③ 体力向上スキルの情報提供を行い，学校全体での体力向上を努める。	B	【達成状況】児童の肯定的回答 88.0% - 昨年度に引き続き，うつのみや元気っ子チャレンジへの積極的参加が見られる。 【次年度の方針】 - 引き続き各種検定カードを通して，学校での取組を各種便りで家庭にも知らせていく。 - 校内では，パワーアップノートの内容等を精選し，地域学校園の共通課題への取り組みなどを進めていく。

	A16 児童は、栄養のバランスを考えて食事をしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、好き嫌いなく給食を食べている。」 ⇒児童の肯定回答80%以上	① 給食指導時に、バランスの良い食事のとり方や好き嫌いなく食事がとれるよう指導する。 ② 食育だより等、学校から保護者への情報発信を積極的に行う。 ③ お弁当作りの計画や振り返りを親子で行うことにより、食について親子で考える機会にする。 ④ 「食生活アンケート」、長期休業中の「生活習慣チェック表」を活用し生活習慣改善を図る。	B 【達成状況】児童の肯定的回答89.8% - 特に低学年で好き嫌いが多く見られるが、苦手な物も食べようとする姿勢が見られる。 - 生活習慣チェック表で栄養バランスによる設問の設定によって、栄養について意識させるとともに傾向を分析することができた。 【次年度の方針】 - HPを活用し「食育だより」等を通して、学校の取組への理解をさらに深めていく。 「生活習慣チェック表」だけでなく、「食生活アンケート」の分析・活用することで、児童への具体的な個別指導を次年度も行っていく。
学 習 等	A17 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、授業中に進んで話し合うなど、積極的に学習している。」 ⇒保護者の肯定的回答85%以上	① ICTを活用した教材・教具の工夫や、課題解決のための話し合い活動の場の設定を効果的に行う。 ② 朝の学習に「学力強化週間」や「チャレンジ学習」を設け、基礎・基本の定着と応用力育成を目指す。 ③ 学校だよりや学年だより等を通して、協働的な学習の充実を図った授業や児童の取組についての情報発信を積極的に行う。	B 【達成状況】保護者の肯定的回答85.5% 「学力強化週間」や「チャレンジ学習」を朝の学習の時間に定期的に設けた。また、話し合い活動やICTを効果的に活用することにより、自分から学習に取り組む態度が身に付いた。さらに、家庭学習強化週間に家庭と連携を図って学習に取り組ませ、情報を共有することにより、保護者の高い肯定的回答が維持できた。 【次年度の方針】 - 朝の学習の時間に基礎・基本の定着を図っていく。
	A18 児童は、落ち着いて学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、授業中に先生や友達の話をよく聞くなど、落ち着いて学習している。」 ⇒保護者の肯定的回答85%以上	① 話の聞き方、ノートの取り方など学習態度・技能を育成する指導の充実を図る。 ② 児童の学習意欲を高めるような発問や、適切な指示、助言等を工夫し、課題を解決する力を育てる授業の実践に努める。	B 【達成状況】保護者の肯定的回答88.8% - 学習の約束を掲示し徹底させることで、基本的学習態度の育成を図った。そのことにより児童は落ち着いて学習に取り組み、保護者の肯定的回答率が85%を超えた。 【次年度の方針】 - 学力向上に関する共通実践を継続することで、児童の学習意欲向上と学習内容の確実な定着を目指していく。
	A19 児童は、地域でのボランティア活動や行事に参加している。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、地域でのボランティア活動や行事に参加している。」 ⇒地域住民の肯定的回答90%以上	① 地区市民センター等と密に連絡を取り合い、積極的な情報発信や啓発に努め、参加を促す。	B 【達成状況】 地域住民の肯定的回答92.9% - 教職員、地域住民、児童の肯定的回答は、90%以上達成できており、地域行事等によく参加している。 【次年度の方針】 - 地区市民センター等と密に連絡を取り合い、児童のボランティア活動へのさらに参加を促すとともに、積極的な情報発信や啓発に努め、保護者の意識を高めていく。

	B1 基本的な学習態度を定着させるための指導を充実する。 【数値指標】【全】 全体アンケート「先生方は、姿勢や返事などの学習するときの約束を教えてください。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 「姿勢・返事」など「学習の約束」の徹底を図り、すべての学級で共通して取り組む。 ③ 地域学校園で連携して家庭学習を推進し、「家庭学習の手引き」の配付や「家庭学習強化週間」の実施などを通して保護者の意識及び児童の学習意欲を高め、家庭学習の習慣化を図る。	【達成状況】児童の肯定的回答 98.2% - 全教職員共通理解のもと、基本的な学習態度の育成に努めてきた結果、徐々に定着してきている。返事については今後も指導を継続していく必要がある。 【次年度の方針】 - 次年度も「家庭学習強化週間」を設けて家庭と連携した取り組みを行うなど、積極的に家庭に協力を求めるとともに、児童の学習意欲を高めるような課題を工夫したり、個に応じた支援をしたりすることで、自主的・主体的な学習態度の育成に努めていく。
本校の特色・課題等	B2 仲間や地域とのふれあいを大切にした活動を推進している。 【数値指標】【全】 全体アンケート「交流活動、運動会、収穫まつりなどの地域とのふれあい活動に楽しく参加している。」 ⇒児童の肯定回答 90%以上 教職員肯定回答 90%以上	① 富屋特別支援学校の児童・徳次郎保育園や山王認定こども園の園児・デイサービスセンターや地区独居老人との交流、祖父母参観を通して、互いの人間関係を深めていく。 ② 地域と融合した運動会や収穫祭の内容を吟味し、地域の人たちとのふれあいを深めるとともに、学習内容の充実を図る。	【達成状況】 児童の肯定的回答 97.2% 教職員の肯定回答 95.0% - 多くの地域住民や保護者の協力のもと、充実した活動を行うことができている。 【次年度の方針】 - 次年度も保護者、地域の声に耳を傾け、仲間や地域とのふれあいや人間関係を深めるための内容のさらなる充実を図っていく。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ほとんどの項目で数値指標を超える肯定的回答が得られており、評価指標・目標等を概ね達成できている状況である。中でも、A1「学校全体に活気・いきいきとした雰囲気」、A2「教職員の熱心な指導」については、教職員・保護者・地域住民・児童いずれも高い回答となっている。また、全体的に児童の肯定的回答が市平均を上回るものが多く、自己肯定感を土台に学習や生活に取り組んでいることが伺える。
- 学習面に関して、基本的学習態度の育成を図り、児童の実態に即した授業展開を工夫して学力向上に努めた結果、児童は落ち着いて学習に取り組むことができた。今後は、家庭との連携を強化して家庭学習を充実させていくことにより、さらに学力向上をめざしていきたい。
- 保健・食育・体力向上に関して、近年、児童の意欲・関心は高い状態で推移している。ただし、家庭での運動の実施状況について、児童と家庭とで差が認められたので、来年度は、家庭で取り組める運動を励行するなど、更に児童・保護者の健康や運動に対する意識の向上を図りたい。
- 児童指導に関して、挨拶については、昨年度より児童の意識も高まり、いい傾向にある。言葉遣いについては、児童の意識と実践が伴わない面があることから、指導の強化を図りたい。
- 特色ある学校づくりに関して、地域住民や保護者の協力のもと、児童は運動会・収穫祭の行事等を通して充実した学校生活を送っている。
- なお、A11の「専門的なスタッフの活用による教員の業務削減」については、市の平均より低い状況にあることから、教員の業務削減につながるよう、より有効な活用（時間・内容等）の工夫をしていきたい。

6 学校関係者評価

児童は、あいさつがよくなるようになってきている。特に中学校と連携した「あいさつ運動」は継続してほしい。また、教職員は、多忙な業務の中、児童一人一人に対して細やかに指導しており、地区住民としても感謝している。教職員の業務の負担感を縮減するために、地域としてできることを明確にし、働き方改革に協力したい。

課題としてあげられたA14「時と場に応じた言葉づかい」については、学校生活全般において、大勢の前で話したり、思いや状況を言葉できちんと伝えたりする機会を意図的に設定する必要がある。同時に、家庭でも、子どもの話をよく聞く、言葉遊びをする、対話をする等、大人が意識して語彙を増やすような工夫をしていくとよい。

また、肯定的回答率の捉え方について、例えば、A5のいじめ対策は97.7%と高いが、-2.3%の児童の思いにも応じていく必要があると思う。

これらを踏まえ、今後も、学校と家庭・地域が連携・協力して児童の学校生活がより豊かなものになるよう支援をしていきたい。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

＜学習指導＞

- 授業力の向上（学力向上に関する共通実践の継続 基礎基本の定着 表現力や語彙力の育成）
- 自主的、主体的な学習習慣の育成（ふるさと学習の工夫 家庭学習の推進 自主学習ノート）

＜児童指導＞

- ・規範意識の醸成（「学習や生活のきまり」の徹底 月の生活目標における強化）
- 基本的な生活習慣の向上（あいさつ運動 時と場に応じた言葉づかい）
- ・家庭と連携したいじめ対策の推進（各種たよりや掲示物等での取組の紹介 HP等での情報発信）

＜健康体力＞

- ・家庭や地域と連携した食育の推進（食育だより お弁当の日 食生活アンケート）
- 家庭での生活を自分から見直す習慣（生活習慣チェック表）
- 体力向上スキルの情報提供による学校全体での体力向上（各種検定カード パワーアップノート）

＜特色ある教育活動＞

- 地域人材や教育資源を生かした活動の推進
（総合的な学習の時間「ホタル学習・米作り・民話活動・富屋再発見」 わくわくお話会）
- 地域での交流活動の推進（収穫祭 ファイト！とみや 福祉施設との交流 幼保小連携）